

# 知的障害児のための療育活動（キッズサークル、サマースクール）

事業代表者：宇都宮大学教育学部 教授 池本喜代正

## 1. 事業の目的・意義

### （1）事業の意義

知的障害のある子どもは、放課後や休日（長期休暇）においてなかなか自分自身で余暇活動を組み立てることができず、多くの場合は保護者（特に母親）が面倒を見ており、家庭でゲームやテレビで時間を過ごすものが多いのが実情である。そのような知的障害児に対して学校以外の場面で他の友達と一緒に十分に体を動かす機会は、なかなかない。そこで、大学という場のリソースと学生という人的リソースを生かし、知的障害のある子どもたちの活動を保障する機会を月1回提供することは、大きな意義がある。知的障害の子どもと学生にとっての「学びの場」として本事業は、これまで15年間継続して実施してきた。

### （2）事業の目的

参加する知的障害児にとっては、発達を支援するために、①楽しみながら体を十分に動かす、②集団への適応性を高め、注意力・集中力を育て、認知面の発達を促すことを目的としている。ボランティアとして参加する学生にとっては、知的障害や発達障害のある子どもと実際に関わることを通して子どもの特性を把握し適切な対応方法を学ぶことを目的としている。

また、活動の裏番組として『保護者プログラム』を実施している。参加する子どもたちは、一人で大学に来ることはできないため、必ず保護者の付き添いとなっている。その保護者たちが集まって、お互いの子育てについて話をしたり、教員からの講話を聞いたりするなど、保護者の学びと仲間作りを目的としている。講師としては、大学教員、小学校教員（特別支援学級担任）、福祉関係者など多様である。

## 2. 事業内容

本事業は、毎月第4土曜日13:30～15:30に

実施するキッズサークルと8月に4日間実施するサマースクールであり、付加的に保護者プログラムを実施している。

### （1）キッズサークル（知的障害児療育活動）

キッズサークル（以下、キッズ）は、月1回宇都宮大学第2体育館にて開催しており、2014年度のキッズの活動は、以下の通りである。

#### 1) 実施日

2014年4月26日（土）、5月24日（土）、6月28日（土）、7月26日（土）、9月27日（土）、10月25日（土）、11月15日（土）、12月20日（土）、

2015年1月24日（土）、2月28日（土）、3月21日（土）

#### 2) 参加者

キッズの対象としているのは、原則として知的障害のある児童である。当然ながら広汎性発達障害を併せ有する者も少なくない。2014年度に参加登録をしたものは、小学生46名、中学生1名であった。特別支援学級在籍者は29名、特別支援学校在籍者は18名である。最近の傾向として特別支援学級の子どもたちの比率が高くなってきている。

子どもたちの参加者数は、月によって異なるが、大体35名から40名程度であった。また、きょうだいたちも5～6名参加している。

ボランティアは、特別支援教育専攻の学生がほとんどであり、毎月20～25名程度の参加がある。今年も作新学院大学の学生や高校生の参加もあった。全体を掌握し、活動内容に助言を与えるために、現職教員や卒業生も毎回数名参加してくれている。

#### 3) 内容

全員でリズムカルな音楽に合わせて集団の大

きな流れに沿って、歩く・走る・止まる・手つなぎ歩行などの動きを行うダイナミック・リズム、ボランティア学生による音楽演奏やペープサートなどを見たり聴いたりする集会、みんなで一緒に楽しむダンスやゲーム等によって構成されている。

進行の中心となっているのは特別支援教育専攻の3年生であり、毎回事前に集まり、集会やゲームなどの内容・担当を決めたり、ペープサートなどの教材を作成したり、ダンスの振り付けを考えたり、ハンドベルやリコーダーなど演奏の練習をするなどの教材準備を行っている。知的障害児や自閉症児の特性を考えて、教材作成を行っており、音楽や視覚的な教材を多く取り入れている。また障害が重く、多くの支援が必要な子どもに関しては個別的な支援を行うようにしている。活動の一部の様子を写真で示す。



写真3 ポンポンを使ったダンス



写真4 ハンドベル演奏



写真1 スケジュールカード



写真2 クリスマス会

## (2) サマースクール

### 1) ねらい

長期休業中(夏休み)に、知的障害児のためのサマースクールを開催し、知的障害児に対する療育的活動を中心としたコミュニケーション能力・集団参加能力などを育成する。ボランティア参加の学生は、障害児と直接触れ合うことを通して、障害児に対する指導のあり方を学ぶ。

2) 期日： 2014年8月7日(木)～10日(日)

### 3) 参加者

今年度の参加者は、小学生35名、中学生1名の計36名であった(全員4日間参加)。事前準備も含めて企画・運営を担当する実行委員会スタッフは9名であった。ボランティアは43名、OB・OGが7名、教員5名であった(4日間参加の者が多いが、1～3日間参加の者もいる)。総勢ち

ようど 100 名の参加である。学生は、特別支援教育専攻の学生・院生が大半であるが、他学科の教育学部学生や農学部・工学部の学生、そして作新学院大学、国際医療福祉大学、白鷗大学、筑波大、東洋大学、立教大学、専修大学の学生も参加した。

#### 4) 内容

今年もサマースクールは、宇都宮市教育委員会の後援を得て、宇都宮市城山地区市民センターで実施した。内容はほぼ例年通りで、1日目・3日目の午前中は、朝の会、ダイナミック・リズムやゲームなどを行って体を動かし、午後はフォトフレームづくりの制作活動を行った。

2日目は、宇都宮市森林公園に行き、体力別に 8 グループに分けてハイキングを計画していた。しかし、途中から雨が降り出し、ハイキングを行えたグループもあったが、古賀志山の登山は中止となった。午後はダンス練習などを行った。

4日目は、午前中カレーライスとサラダなどの調理活動を行った。子どもの能力や生活年齢に合わせて調理の活動内容を変えており、子どもの実態に即した活動となっている。

午後は、練習してきたダンスや自分たちで作った作品を保護者に発表したり、マジックショー(演者は元宇都宮大学職員)を見るなどのお別れ会、そして閉校式を行った。



写真5 マジックショウ



写真6 制作発表



写真7 待ちに待ったカレーライス

毎回、開催後に保護者からのアンケートを取っており(回収数 30)、その回答を見るならば企画・活動に対する満足度は、「満足」(16人)「やや満足」(8人)と、満足度の高い結果である。



写真8 最終日 ボラの記念撮影

自由記述としては、「企画が盛りだくさんで、いろいろな経験ができてよかった。」「個別にボランティアがいたことで、信頼関係が築けてよかった。」「初参加で始めはぐずっていたが、ち

やんと 4 日間参加することができてよかった。」  
「ボランティア、スタッフが明るく、笑顔で接していた点がよかった。」などの感想があった。

### 3. 事業の成果

キッズサークルは、大学における知的障害児の療育活動であり、障害のある子どもたちにとって楽しく安全に活動できる貴重な機会である。今年度は、小学校低学年の児童が比較的多い集団であった。毎回参加することで、子どもたち自身も流れを理解し、見通しを持って活動に参加でき、集団としてのまとまりができています。

ボランティアとして参加している学生にとっては、子どもの前で自分達の作成した教材を提示したり、手遊び歌などをしたり、子どもたちに働きかけるという教師的な活動となっており、「教師としての実践力養成の場」である。この活動に参加している学生は、教員志向が高く、過去において教員になった者の割合が非常に高い。

サマースクールは、キッズサークルの延長線にあり、マンツーマンで子どもに学生がつき、障害のある子どもと一日を通して一緒に活動することによって障害児教育への関心も高くなるという結果が出ている。アンケートからも参加して達成された項目で「障害児とかかわる経験を積むこと」が最も多く、「特別支援教育に大変興味関心が深まった」にほとんどが回答している。

キッズサークルとサマースクールは、特別支援教育専攻の学生を中心に 15 年間継続してきた活動であり、ボランティア活動に関心がある学生が障害児の特性や子どもとの関わり方を学ぶ有効な機会となっている。指導技術、運営・企画の仕方も下の学生が上の学生から学び、引き継がれており、年々レベルアップしている。もちろん活動の主体である障害のある子どもたちにとっても、このような手厚い指導の下で体を動かすという活動は他に類を見ない活動であり、子ども達も喜んで参加していると同時に保護者からも非常に意義深い活動であると高く評価されている。

### 4. 今後の展望

2015 年度も事業を継続する予定である。学生たちが主体的にかかわり、運営している活動であり、教育的意義がとても高い。

近年の参加者の特徴としては、比較的高機能である自閉症スペクトラム障害の児童の割合が増えていることやダウン症児の数も増えていることである。障害種・程度が多様化していく中で、発達段階や障害の特性に応じた指導を行っていききたい。子どもたちの実態・特性に応じた活動内容・支援方法についてボランティア学生とともに検討していきたい。